

平成26年度 生活指導部 年間分掌マネジメント

岩美町立岩美中学校

<p>学校教育目標</p>	<p>生活のリズム（望ましい睡眠・食事のあり方、メディアとのつきあい方）、生活習慣（身だしなみ、清潔感、整理整頓）を定着させ、自主・自立の精神を養い、共生の精神を尊重する人間関係づくりを構築し、学力向上をめざす。</p>								
<p>重点努力事項</p>	<p>(1) 生活リズムや生活習慣を身につけさせ、学習規律や学習態度の確立、学習習慣を定着させることによって、基礎学力の向上をめざす。 (2) 人間関係を育む学級経営、学習指導、学校行事、生徒会行事、部活動を通して、「学校が楽しくて満足している」と実感できる、共に生きる集団づくりをめざす。 (3) 生徒一人ひとりが、価値ある存在として実感することができ、自分の生き方に希望や誇りをもって、「社会とどう向き合い、社会とどう関わっていくか」を形成し、自己実現を図っていくことができる学校づくりをめざす。</p>								
<p>分掌重点目標</p>	<p>規則正しい生活習慣を定着させるとともに、ルール・マナー・モラルの向上と共生の精神を尊重する態度を育て、地域に貢献する意欲を高める。</p>								
<p>25年度の成果と課題 Do&Check</p>	<p>26年度へのAction(工夫・改善)</p>	<p>分掌がめざす生徒の姿</p>	<p>分掌目標 Plan</p>	<p>主な活動 Do</p>	<p>活動へ向けての努力事項 Do</p>	<p>到達目標</p>	<p>評価基準(Check)</p>	<p>成果と課題 Do&Check</p>	<p>来年度へのAction (工夫・改善)</p>
<p>睡眠時間が7時間以上であった生徒が70%であった。学年により違いが大きく、2年生は6時間より少ない生徒が10%に達していた。これはテレビ等のメディアの利用と密接な関連がある。それと同時にあまりにもline等のメディアに対して無防備であるように感じる。</p>	<p>line等のメディア利用に関する指導をしていく。講師を招き研修会を開いたりして、メディアの利便性ばかりでなく、危険性を伝えていく必要がある。</p>	<p>・ ・ ・ ・ ・ 自明ル自人 他を1分を をいルを喜 価値を大ば 値守切れ、 りに人 存度マに 在あナ他役 とる1人立 しきををつ てび身大自 実きに切分 感びにつに 好しけす好 た・るきな 共行モ自分 生がら分生 生がら分生 との好きな 仲間自分生 活が好きな な生徒 である生徒</p>	<p>○○○ 達成規則 感正しく 役割マイ 立ち活 感、習 得らと らる規 れの律 を活立 定動を 着めさ 増させる やする</p>	<p>生活指導</p>	<p>基本的な生活習慣を身につけさせる。 ○「生活振り返りアンケート」を7月、11月、2月の年3回実施する。 ○アンケート結果を集計・分析し、各種通信等で生徒と保護者へ啓発する。 (センター・スクラムとの連携) ○生活委員会指導 毎朝の服装・頭髪チェックを徹底させ、ルール・マナー・モラルを守って生活する意識を高めさせる。</p>	<p>○早寝・早起き・朝食をとることを生徒・保護者に意識づけ、習慣化をめざす。 ○メディアの利用時間を自己管理できるようにさせる。</p>	<p>○生活振り返りアンケート「1日の睡眠時間」7～8時間が80%。「就寝時刻」0時以降が20%以下。「起床時刻」6時半頃までが60%以上。「朝食をとる」が90%以上。「平日のTV視聴」2時間までが65%以上。</p>		
<p>食事の内容に問題がある生徒も朝食を食べる習慣はついていない。どの学級も朝食を完食することができていないものは友達に食べてもらうなど学級に差が見られた。</p>	<p>給食については年度当初に嫌いなものでも少しずつ食べさせるよう、配膳の仕方や完食について職員で意思統一する必要がある。</p>			<p>食育指導</p>	<p>○基本的な生活習慣の定着に向けた啓発活動を行う。 ○保護者に向けた啓発活動を行う。 ○地場産物を積極的に活かす。 ○給食委員会指導 給食当番チェックにより手洗い・白衣・マスク着用を徹底させる。残量チェック。</p>	<p>○早寝・早起き・朝ごはんの定着。 ○地元のをよさを理解し、生産者やふるさとへの感謝をもつことができる。 ○栄養の偏りなく食事しようとする事ができる。</p>	<p>○生活振り返りアンケート「朝食をとる」が90%以上。 ○食生活調査「主食・主菜・副菜がそろっている」28%以上。 「岩美町の特産品を知っている」90%以上。 ○普段から苦手なものがあっても食べている。50%以上</p>		
<p>・毎日朝食を食べる生徒は95%であった。食べない習慣になっている生徒2名については、個別指導を行い、経過を見ている。 ・睡眠時間は、93%が6～8時間であった。 ・TV・PC等のメディア利用時間は2時間以下が平日75%・休日40%であった。 ・夜の歯磨き3分以上は約80%であった。</p>	<p>・朝食・歯磨き・手洗い・病気の予防等の健康習慣は定着してきているが、個別にはできていない生徒もいるので、個別指導・継続観察が必要。 ・メディアの利用は、睡眠時間・生活リズムの視点のみならず心の健康にも関わるので、今後の指導を重点的に進めていく必要がある。</p>			<p>健康安全指導</p>	<p>進んで健康増進活動や安全な生活に取り組む生徒を育てる。 ○基本的な生活習慣の定着に向けた啓発活動を行う。 ○保・小・中が連携した歯磨き指導を実施する。 ○健康・安全を意識した生活の啓発活動を行う。 ○生徒保健委員会と連携して健康生活の啓発活動を行う。</p>	<p>○生徒に早寝・早起き・朝ごはんの習慣が身に付く。 ○メディアの利用時間が合わせて1日2時間以内に行える。 ○給食後の歯磨き・夜の歯磨きが習慣化できる。 ○昼休憩の体育館利用者が増える。 ○登下校での事故がない。</p>	<p>・朝食を食べる習慣が身に付いている生徒が90%以上 ・睡眠時間7時間以下の生徒50%以下 ・メディアの利用時間3時間以上の生徒40%以下 ・メディアの利用時間3時間以上の生徒10%以下 ・夜の歯磨き3分以上60%</p>		
<p>対象生徒の個別の取組目標等を話し合う会としたことで、スリムで効果的な会になってきた。全職員への周知については、日々の連携で補いたい。</p>	<p>・睡眠時間は、93%が6～8時間であった。</p>			<p>教育相談活動</p>	<p>○毎月1回、不適応対策委員会を実施する。(不適応生徒の実態把握と対応の検討) ○年に3回、全校教育相談を実施する。(不適応傾向が現れていない生徒の実態把握と対応) ○相談室、くすのき教室の活用(不適応生徒の自立支援) ○SCや関係諸機関などとの連携(生徒の支援に関わる関係機関との連携と、保・小・中を通じた一貫した支援体制の確立)。</p>	<p>○不適応生徒について、不適応対策委員会にて課題と目標を共有しチームで対応を行う。 ○生徒と関係教員等が同じ目標を意識し、できるようになったことを適切に評価するチーム支援を行う。</p>	<p>○教職員質問紙 学校不適応対策は委員会を中心に計画的に実施されている。90%以上 ○生徒質問紙 ・困ったとき、相談できる先生がいる70%以上</p>		
<p>支援委員会や就学指導の会は予定通り実施できた。(第2回の就学指導委員会は対象者無しのため中止)個別の指導計画に沿って、指導が行われたが、欠席が多い生徒に対する指導をどうしていくかが課題である。</p>	<p>・TV・PC等のメディア利用時間は2時間以下が平日75%・休日40%であった。</p>			<p>特別支援教育</p>	<p>○「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」に基づいた支援活動を行う。 ○各学期1回、校内支援委員会を実施する。 ○年2回、校内就学指導委員会を開き、適切な就学指導を行う。 ○関係諸機関との連携。</p>	<p>○「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」に基づいて、教職員が連携し個別支援を行うことができた。 ○支援を受け、安心して学習や活動に取り組むことができる。</p>	<p>・各学期1回校内支援委員会を行うことができた。 ・校内就学指導委員会を通して適切な就学指導ができた。</p>		
<p>道徳の授業は、体験活動と関連づけて計画的に実施できた。 自己肯定感が高く、礼儀正しい言動ができる生徒が多いが、校外でのモラル・マナーを守るという点では課題が残っている。</p>	<p>・夜の歯磨き3分以上は約80%であった。</p>			<p>道徳教育</p>	<p>○「道徳教育マネジメント」に基づき、体験活動と関連づけた道徳教育を全校体制で行う。 ○「道徳全体計画別業」に基づき、全教科全領域における道徳教育を行う。</p>	<p>○望ましい生活習慣の定着を図る。 ○礼儀の意味を理解しその場に応じた言動をとる生徒の育成 ○自他の生命を尊重する生徒の育成 ○秩序と規律を高める生徒の育成</p>	<p>○生徒質問紙 ・社会のルール、マナー、モラルを大切にしている95%以上 ・道徳の学習は学ぶことが多い60%以上</p>		
<p>「相手の意見も自分の意見も大切…」の項目は肯定的評価が90%以上に達しており、また「話し合い、協力し合って…」の項目も肯定的評価が79%以上に達しており、ほとんどの生徒が周りの人を大切にしながら自分の思いを表現しようとする意識が身につけている。 意識はできているが、行動面でまだまだ課題が残っているので、今後は行動化に向けての取り組みが必要である。</p>	<p>他の人も自分も大切に、互いを尊重していこうとする意識を育てつつ、その意識を態度や行動につなげる取り組みや授業実践を年系の見直しをもとに計画していきたい。</p>			<p>人権教育</p>	<p>○「人権教育マネジメント」に基づき、「人権としての教育(学力保障)」「人権についての教育(人権意識を高める指導)」「人権が尊重された教育(仲間づくり)」を全校体制で行う。</p>	<p>○自分の思いを表現し、人の思いを受け止めながら、落ち着いた生活を実践することができる。 ○相手との対等な関係を考えながら会話・行動しようとする事ができる。</p>	<p>「人権教育アンケート」 ○「相手の意見も自分の意見も大切に、話し合い、より良い方法を考える」の肯定的評価90%以上 ○「話し合い、協力し合って課題解決に取り組んだ」の肯定的評価75%以上</p>		
<p>「テストを意識している」の肯定的評価が92%に達しており、また掃除を丁寧に取組もうとしている姿も見られた。緑化ボランティアでは、多くの生徒が参加した。今後もこの活動を続けていきたいところである。</p>	<p>校内清掃について、「何のために掃除をするのか」「なぜ無言掃除に取り組むのか」を生徒に理解させる必要がある。そのために、環境委員を使って呼びかけ等行う必要がある。</p>			<p>環境美化</p>	<p>○自ら進んで環境をよくしようとする生徒の育成 ○生徒の活動によるテストの推進 ○無言掃除の徹底 ○環境委員会との連携による緑化活動の推進</p>	<p>○積極的に清掃活動に取り組む生徒が増える。 ○緑化ボランティアの増加 ○生徒の活動により、テストの意識が高まる。</p>	<p>○生徒質問紙 「テストを意識している」の肯定的評価が65%以上 ○無言掃除を徹底しようとしている</p>		